



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 229

2015/010/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

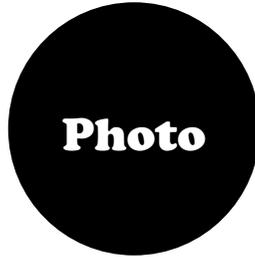
GREEN COLUMN

01. コウモリ調査

02. 黒曜石の原産地に行く



今月の一枚



「ヒグマとくらす森」

表紙写真・文／町田善康

世界遺産知床。日本で最もヒグマに出会うことができる場所として有名です。平然と人前にヒグマが出てくるために、問題視すらされています。

一方、美幌町内では、山の奥地まで入り調査をしていますが、まだ一度もヒグマに出会ったことがありません。

とはいえ、自動撮影装置を仕掛けてみると、町内の森にもヒグマが暮らしていることがよくわかります。そんなクマの様子は、以下のwebサイトから見ることができます。

<https://www.youtube.com/watch?v=5m98VA4S9Wg&feature=youtu.be>

Event. 今月のイベント

特別展「すてきな昆虫たち」～10月25日(日)

美幌博物館開館記念日イベント 10月12日(月)

プチ工房「木の実を使った工作」10月8日(木),15日(木)

モノ作り講座「麦わらで虫かごづくり」10月16日(金),17日(土)

博物館講座(芸術編)「対話による美術鑑賞」10月24日(土)

Information. 参加者募集

美幌博物館開館記念日イベント

●10/12(月)9:30-17:00 ●美幌博物館 ●無料 ●つきたておもちの配布(10:00-なくなり次第終了),もちつき体験(10:00-13:00),せんべい焼き体験(10:00-16:00),特別展解説(10:00-16:00,先着200名に絵はがきをプレゼント),コースター作り(10:00-16:00)。悪天の場合、せんべい焼きが中止になる場合があります。

プチ工房「木の実を使った工作」

●10/8(木),15(木)10:00-12:00,14:00-16:00 自由に入室。作品ができれば終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費(100円) ●福田春美(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

モノ作り講座「麦わらで虫かごづくり」

●10/16(金),17(土)9:30-12:00 ●美幌博物館 1F 講座室 ●無料,お持ちの方は霧吹き ●鬼丸和幸(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(10/1-10/15)。対象は幼児から一般,小学校3年生以下は保護者の同伴が必要,定員10名で締切。

モノ作り講座「森の散歩とたから箱づくり」

●11/7(土)10:00-12:00 ●美幌博物館 1F 講座室,みどりの村森林公園 ●材料費・保険料(300円),野外で活動できる服装,飲み物,カッパ ●城坂結実(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(10/1-10/31)。対象は幼児から一般,小学校3年生以下は保護者の同伴が必要,定員12名で締切。荒天時は10:00-11:00に室内で行います。

博物館講座(芸術編)「対話による美術鑑賞」

●10/24(土)9:30-12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室,美術展示室 ●無料,動きやすい服装 ●福田春美(美幌博物館) ●美幌博物館へ電話申込み(10/1-10/23)。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要,定員16名で締切。

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

今月の休館日

5日,13日
19日,26日



コウモリ調査

写真・文／町田善康



日没を迎え、暗くなってくる森の中、賑やかに鳴いていた鳥の声が聞こえなくなり、あたりは静まり返ってきます。すると、手元のバットディテクター（コウモリの超音波を感知する装置）が“ザザザッ ザザザッ”と音を立てて、静寂を破ります。懐中電灯の明かりを付けて、設置したカシミ網を見ると小さな動物がかかっていた。コウモリです。

コウモリを鳥の仲間と思っている方も多いかもしれませんが、実は私たち人間と同じ哺乳類。赤ちゃんを乳で育てます。一方、指は長く伸び、翼のように変化して大空を飛びまわることができます。そして、超音波を発して辺りの様子を探ります。先に紹介したバットディテクターは、コウモリが発する超音波を感知する装置のことなのです。彼らは、この超音波を駆使することで、闇夜でも活動することができ

るため、私たちがのんびり家で晩御飯を食べ、寝ている時間が活動時間です。ですから、実際にコウモリを見たことがある人はとても少ないはずです。しかし、森の中はもちろん、川や用水路、時には人家の近くにまで、コウモリは現れます。

今年、道東蝙蝠研究所の近藤憲久さんの協力のもと、たくさんのボランティアの皆さんと共にコウモリ調査を行っています。既に100頭以上のコウモリを捕獲し、美幌町内には、11種類のコウモリが暮らしていることが明らかになっています。

今後、調査を進めることで、どんな場所に、どんなコウモリが暮らしているのか、詳しくわかってくるはずです。

黒曜石の 原産地に行く

写真・文／八重柏誠



黒曜石がある場所を見てみた。考古学に関する講座を開催すると、多くの参加者から、このような声が寄せられます。山全体が黒曜石で光り輝いているのですか？露頭って全部黒曜石で出来ているのですか？…皆さんから、いろいろな疑問をぶつけられます。そんな疑問に答えるため、美幌町を飛び出して、遠軽町白滝の黒曜石露頭を見学する博物館講座を計画しました。

ところが、7月31日の大雨により状況が一変しました。露頭へ通じる林道が、大雨の影響で崩れてしまったのです。復旧の目処もたたないとのことから、一時は中止も考えましたが、多くの参加希望者がいたことから、内容を変更して開催することになりました。山に登れないのであれば、川で黒曜石を見てみよう、ということで十勝石沢川へ行くことに。この川は十勝石

沢露頭に通じているので、川の中に黒曜石があるはずですよ。

講座当日は快晴、白滝のジオパークガイド施設にて黒曜石の成り立ちについて学んでから、いよいよ十勝石沢川へ。川に通じる砂利道には、既に黒曜石がキラキラと輝いています。川を覗くと、なにやら黒いものが揺らめいています。手に取ってみると、それはもちろん黒曜石です。十勝石沢の黒曜石は、梨肌黒曜石とも呼ばれる、表面がザラザラしたものです。白滝と言えば花十勝と呼ばれる赤い黒曜石のイメージが強いですが、他にも色々な種類の黒曜石があることを、参加した方々は学べたのではないのでしょうか。

今回の講座、やはり黒曜石露頭に行けなかったことが心残りです。来年こそは露頭に行ってみたい！みなさんの希望に応えられるように頑張りたいと思います。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



8月29日に行われた博物館講座「黒曜石の産地
を見に行こう」は、久しぶりの快晴の下で無事開
催されました。大人の日帰り遠足のような雰囲気
で、楽しいひとときを過ごすことができました。
これで雨男は返上ですね？町田さん！（八重柏）